

早生で縞萎縮病および穂発芽に強い 麺用硬質小麦新品種「あおぼの恋」

国産小麦の主な用途は麺用（うどん用）ですが、実需者からは加工適性のより優れた品種、生産者からは栽培性のより優れた品種を求める声が強くなっています。宮城県でも麺用小麦の主力品種「シラネコムギ」について、麺への加工適性が不十分であること、縞萎縮病に罹病性のためその常発地帯では作付けが難しいこと等が指摘されています。そこで、製麺性が優れ早生で縞萎縮病抵抗性をもつ、南東北の気候に適した品種を育成しました。

☆ 技術の概要

小麦「あおぼの恋」は1990年度に、良質・良色層を育種目標として、「関東105号」と「Veery'S」のF1を母、「西海171号」（のちの「チクゴイズミ」）を父として人工交配を行い、集団育種法により選抜・固定を図ってきたもので、「農林61号」と比較して次のような特徴があります。

1. 播性程度はⅡで、出穂期、成熟期がともに4日程度早生で、稈長は短く耐倒伏性がやや優れています。
2. 穂長と穂数は同程度ですが収量性は高く、容積重と千粒重も大きい値を示します。
3. 縞萎縮病と穂発芽には強いですが、うどんこ病と赤かび病にはやや弱い特徴があります。
4. 硬質で製粉歩留まりが高く、60%粉の色はやや劣ります。
5. やや低アミロース含量で茹で麺の粘弾性が高く、総合評価点は優れています。

表1 あおぼの恋の特性

品種名	あおぼの恋	農林61号
成熟期（月日）	6.8	6.12
耐倒伏性	中	やや弱
穂発芽性	かなり難	難
縞萎縮病抵抗性	強	中
子実重（kg/a）	63.4	51.6

表2 あおぼの恋の製麺試験（乾麺）

系統名	試験地	色 (20)	外観 (15)	かたさ (10)	粘弾性 (25)	滑らかさ (15)	香り・味 (15)	合計
あおぼの恋	宮城県古川	16.8	11.1	7.4	19.8	11.4	10.2	76.5
シラネコムギ	農業試験場	14.0	10.5	7.0	17.5	10.5	10.5	70.0

☆ 活用面での留意点

1. 南東北及び関東以西の平坦地に適するめん用小麦で宮城県での普及が見込まれる。
2. 穂発芽性は“かなり難”であるが、品質低下を避けるため適期収穫に努める。
3. うどんこ病抵抗性および赤かび病抵抗性は“やや弱”であるので、適期防除に努める。
4. 詳細は作物研・めん用小麦研究チーム（電話 029-838-7497）へお問い合わせ下さい。

（中央農業総合研究センター 研究管理監 寺島一男）